Development of a Measurement Scale to Evaluate Self-Care Stability for Patients Diagnosed with Type 2 Diabetes at an Older Age

メタデータ	言語: eng 出版者: 公開日: 2020-09-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/00059265

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.

令和 元 年 8 月 21 日

博士論文審査結果報告書

報告番号

学籍番号　1329022007

氏　　名　誉田　恵理

論文審査員

主　査（職名）　須釜　淳子　（教授）

副　査（職名）　塚崎　恵子　（教授）

副　査（職名）　稲垣　美智子（教授）

論文題名 Development of a Measurement Scal to Evaluate Self-Care Stability for Patients Diagnosed with Type2 Diabetes at an Older Age（診断時高齢の 2 型糖尿病患者におけるセルフケア安定性評価尺度の開発）

論文審査結果

【論文内容の要旨】

糖尿病治療目標は代謝異常の改善，合併症の発症・増悪の予防，健康人と変わらないＱＯＬの維持，寿命の全うであり，そのため食事療法，運動療法，薬物療法は高齢期に診断を受けた患者においても必須である。さらに近年では，高齢の糖尿病患者は成人に比較し高血糖のみならず低血糖による有害事象が生じやすいことが明らかにされた。しかし医療者は患者が高齢な故に，厳格な血糖管理をすると患者のＱＯＬを脅かす可能性にジレンマを生じ，明確な療養支援ができていない現状にある。そこで本研究に先行し，前期課程において高齢期に 2 型糖尿病と診断を受けた患者のセルフケア習得していく様相を明らかにし，安定したセルフケアの要素を見出した。本研究は，その結果を基に質問紙を作成し，信頼性と妥当性を検証した。尺度原案は，項目精選と表面妥当性の検証を経て最終的に 33 項目であった。信頼性と妥当性の検証は，1 県内の 60 歳以降に 2 型糖尿病と診断された患者を対象とし，調査票回収数 76，有効回答数 69 が分析対象となった。方法は尺度開発の手順に基づき，項目分析では，天井効果・フロア効果の検討を行い，I-T 相関を確認し、構成概念妥当性は探索的因子分析，基準関連妥当性の検討には，モラールスケールおよび HbA1c（血糖コントロール指標）を用いた。信頼性の検討は尺度全体及び下位尺度の Cronbach' sα係数を算出した。結果，7 因子 20 項目，5 段階リカート形式であり得点 20～100 点の質問紙が完成した。全項目の Cronbach' sα係数は 0.419-0.834 であり，尺度全体全体では 0.700 であった。またモラールスケール得点との相関は，r=0.379（p<0.01），および HbA1c の良好群の総得点が有意（有意確率 0.045）に高く一定の妥当性が確認された。

【審査結果の要旨】

本研究は，高齢社会における 2 型糖尿病患者の増加に対応し，ＱＯＬ維持・向上と血糖管理に有効な行動の可視化ができたことに独創性があり，糖尿病治療および看護に大きく貢献するものである。公開審査での質疑応答も適切であった。以上，学位請求者は本論文の論文審査及び最終試験の状況に基づき，博士（保健学）の学位を授与するに値すると評価する。